

中野江漢 なかの けいがん 支那研究家。明治二十二年福岡縣生れ、昭和二十五年歿（一八九九—一九五〇）。本名吉三郎。明治末年渡支、爾後亦く在住。北京で小濱氏照、辻穂花、橋朴庵 しらくあん（稜）等と支那風物研究會を興して、「支那風物叢書」を著した。のち支那滿蒙研究會主宰。著書に『北京繁昌日記』（第一卷・大正十一年八月五日刊）、『支那の賣笑』（大正十一年十一月二十日刊）、『支那の社會』（大正十四年九月二十日刊）、『支那の豫言』（大正十四年十一月二十日刊。以上、北京・支那風物研究會「支那風物叢書」）等の他、佐藤瞻齋著『王道講話』（編註、昭和十二年十一月十七日信成社）がある。

